

令和6年7月19日（金）に、『第21回 いっそう元気！東近江』を開催しました。これまでに話し合ってきた「やってみたいこと」や「ワクワクできそう」の意見をもとに、5つのテーマを設定し、ワールドカフェを行いました。今後、5つのテーマからの課題と取り組みを整理し、プロジェクト化を目指していきます。



1 高齢男性の“働く”を通じた居場所づくり



❖つながり方はたくさんある

- ・農村地域の男性は、サロンは行かないが、営農など農作業や、お酒など、趣味の場には集まることができる。
- ・男性への声かけは「一緒に何かをしよう」ではなく「ちょっと手伝って」という方が参加してくれる。
- ・ちょっとした仕事(芝刈りや広報の封詰など)があればフレイル、プレフレイル傾向にある方の重度化予防、参加支援につながる。
- ・参加者の顔の見える(見守り合える)関係につながるとうよい。
- ・自分が行きたいと思える場を選べることが大切。

❖ボランティアも大事だが、「対価」があると参加しやすい

- ・今まではボランティア精神で活動される方が多かったが、少し若い世代を見ると定年退職後の再雇用などで仕事をし続ける(地域と関わる時間がない)傾向がある。
- ・ボランティアより、少しの対価をもらって活動したい人が増えている。「働く」という程ガッツリではなく、やりがいを感じられる程度の対価。

2 福祉サービスの利用に対する理解促進と駐車場問題の解決

❖公と民の協力により利用できる駐車場も必要

- ・マンションやアパートは、介護で来ている家族も止める場所がない。
- ・公共施設は、「責任が持てない」と断られることが多い。
- ・事前に相談すれば止めさせてもらえる店もある(ドラッグストアやコンビニ、スーパーなど広い駐車場をもつお店)。

❖駐車場問題を通じて、サービス利用に対する理解を拡げる

- ・なぜ、駐車場問題が課題になっているのか、その状況を含めて伝えないといけない。同時に「サービス利用が増えると、地域でのつながりが切れてしまう問題」について発信していけると良い。サービス利用を自分事として考えてもらえるとうよい。
- ・子ども・障がい・困窮・保健など、訪問を必要とする専門職みんなの問題。いずれ支援が必要になる住民にとっても自分事の課題にしていける方がよい。



3 地域活動を応援する仕組みづくり



❖ “地域活動を応援する”とは？

- 多くの専門職が“地域とつながる大切さ”を感じているが、地域にどのような活動があるのか、どう関わればいいのか、情報もきっかけもない。
- 地域からは認知症やフレイル予防のことなど『より実践的なことを教えてほしい』という声が多い。そこに専門職の得意を發揮できる機会があるが、コーディネーター役がない。

- “やってみよう”と気軽に手が挙げられて、それを応援できる、アシストできる地域の風土が必要。
- 人材バンクも居場所づくりも“つながりづくり”のきっかけ。また、もとのつながりを上手に活かすことで、人材バンクや居場所がより活発に機能する。

4 “いっそう元気！東近江”からの第2層や地域への情報共有

❖ “いっそう元気！東近江”をもっと知ってほしい！

- 寸劇で地域へ出かけた時、地域の方との交流がとても楽しかった。「いっそう元気！東近江」存在自体の紹介もだが、寸劇などの取り組みを知ってもらいたい。
- 第2層協議体の会議で、「いっそう元気！東近江」に関わっているメンバーや社協職員から話題提供してもらい、共有できればよい。



❖ 第2層協議体との交流

- いっそう元気！東近江のかわら版を第2層協議体メンバーに配布するだけでも、市域でどんな課題がでているのか知って、各地域ではどうなのだろうと考えるきっかけになる。
- 各地区の第2層協議体が感じていることを共有しあえると、おのずと市域での新たな課題が見えてくるかもしれない。それを第1層協議体に持ち込んで、双方向で意見が言い合える輪が広がっていくとよい。

5 地域を知る機会とツールづくり



❖ 地域を知る機会

- やっぱり知ってもらうには“誘う”が大事。知っている人に誘われると「行ってみようかな」と思える。チラシだけでは来ない。
- 地域同士のボランティア活動が減少。何でもお金で解決できる時代に…。
- 『とりあえずやってみよう』と言える人、言える環境がなくなってきている。自由の楽しさを知らない人が多い。

❖ 出会って話して関わる大事さ

- 地域で色々な人と出会う機会が大事。
- 地域の中にある『小さな好き(趣味、仲間、家族、場所)』がたくさんあると良い。自分たちの地域に愛着も出るし、我事になって他人事にはならないのではないかな？
- 何かのきっかけを作って、『みんな外に出ようぜ！』というテーマをもとう！